



十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて「お正月の朝早く来たものから12番目の者をその年の干支にする」と言いました。猫はうっかりしていたのでネズミに尋ねました。ネズミはわざと約束の次の日を教えました。ネズミが牛のところに行くと牛は、「歩くのがゆっくりだから、早く出かけるよ」と言うのでネズミはすかさず牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の門の前まで来るとネズミは牛の背中から飛び降りて、「私が一番！」と名乗りました。そして、牛が2番です。次々にトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシと干支をつけてもらいました。

次の日に行った猫は、誰もいないのであわてて門番に尋ねると「顔を洗って出直して来い」といわれました。猫が良く顔を洗うしぐさをするようになり、ネズミを追いかけるのはこのときからだそうです。



とんど焼き

小正月の行事で、正月の松飾り、しめ縄、書初めなどを、長い竹、萱、藁などを組んだものに飾り付け、燃やすという、日本全国に伝わるお正月行事です。また、残り火で餅や、団子を焼いて食べると、その一年元気で過ごせるといういわれがあります。

今年も、東雲本町公園で12日(月)に行われます。

ご家族で、お正月の伝統行事に触れてみてはいかがでしょうか。



消さないで
あなたの心の
注意の火



広島市南消防署
警防課 救助係



平成27年

1月の園だより



新年を迎えるにあたって

明けましておめでとうございます。ご家族ともども楽しいお正月を過ごされたことと思います。

昨年は消費税の引き上げという大きな出来事がありましたが、広島土砂災害や御嶽山の噴火など自然災害の恐ろしさを痛感した年でもありました。今年が皆様にとりまして、良い年になることを心より念じているところです。

現在日本は、一部に改善のきざしが見えるものの、長引く経済の低迷や少子化の進行に伴う医療・介護費用の増加、財政基盤の悪化、加えて中国の海外進出など多くの課題を抱え、国の内外ともに今後の在り方に注目を集めています。

1月3日の読売新聞の中で、京セラの創始者で名誉会長の稲村和夫氏が、「バブル経済が崩壊して約25年、日本経済は大発展は止まり、成長はさほどしていないが、決して貧乏になったわけではない。(略)カエルは熱い湯に入ると飛び出していくが、水を徐々に温めても温度の変化に気づかず、じっとしている。ぬるま湯の中で育った人は、終戦直後のような苦勞を知らず、現状を打破しようという強烈な思いを持ったことがない。頭脳は優秀でも、そうゆう人たちが指導者層になった結果、停滞している現状を招いている。」これからの子どもたちは、世界中で多国籍の人と入り混じって生きていかなければなりません。誰かの引いた路線の中で、言われるままにの時代ではありません。

しかし、心配なことがあります。昨年1月の園だよりで白梅学園大学学長汐見先生の、日本青少年研究所が2002年に15歳の高校生に行った「自分の存在に対する自信」調査において、日本の若者が諸外国に比べて極端に自信がないことを紹介しました。先生は「日本の子ども・若者の自己肯定感が、世界で一番激しく低下し、落ちこぼれも増えている原因は、“読み聞かせもなく”、“存在を認められることもなく”、“問題を抱えていても放置され”、この状態を15年間も続けてきた結果である。日本の教育は勉強嫌いを作る教育であったのではないか？。勉強が好きになる教育や、幸せにつながることを教えず、ただ、勉強を強制したり、目的も受験であったり、よい会社に入るためなど、子どもたちに理解できないことを押し付けてきたからではないか。」と言っておられます。

自己肯定感(自分の存在に対する自信)がないと、人との付き合いも何かに挑戦する意欲もわかず自信も身につきません。自己肯定感は乳幼児期の時から、自分の思ったように行動でき、子どもであっても一人の人間として認められ、人格を傷つけるような言葉や無視もなく、失敗しても大人から人生の先輩として、本人が理解できる時期やタイミングをみての指導を受けていれば、少しずつ身につくものだと思います。本年もよろしく願い申し上げます。

しっかり身につけたい生活習慣

「早寝・早起き・睡眠の習慣」

早寝が何より大切です。親と一緒に起きていたがるものですが、午後8時から9時ごろまでには必ず床に入るようにさせると、自然に翌朝6時ごろには目が覚めます。なかなか寝つけない時は、ゆったりと絵本を読んだり、優しくマッサージしたりなど、それらを習慣化すると良いでしょう。

「食事の習慣」

家族で会話をしながら、楽しい雰囲気でご飯を食べてみましょう。また間食を控え、お腹がすいて食事が待ち遠しくなるようにします。そして、残さずに食べて欲しいものですが、子どもによって個人差があるので、適量を知って見守るようにしましょう。

「危険・安全の習慣」

子どもの不慮の事故で一番多いものは、交通事故だと言われています。飛び出しなどに特に気を付け、その場できちんと伝えましょう。その他、刃物や火あそびなども、なぜいけないのか、理解するまで根気よく教えます。

「あそび」

3歳くらいになると、一緒に遊ぶ友だちがほしくなります。お休みの日などは家の中だけでなく、公園や、野外に出かけて友だちとしっかり体を動かして遊ばせましょう。友だちとのやり取りの中で創造性や、社会性、協調性などが育ちます。



平成27年度 保育申請について

来年度の保育申請を1月5日(月)から受け付けます。書類を揃えて、保育園に提出いただきますようお願いいたします。また、保育課の方との面談をご希望の方は、書類と共に

1月28日(水)9:30~16:00

第二みみょう保育園5階ホール

にお越しください。